

Question I

Choose a question paper either in English or in Japanese (日本語). You do not need to answer both.

Question II

The question is written in both languages. You may read and answer it in either language.

令和5年度 福島大学大学院地域デザイン科学研究科人間文化専攻入試問題

コース (領域) 名	人間発達心理 (教育心理学)	科目名	教育心理学	受験番号 (Write down your examinee number)	
---------------	----------------	-----	-------	--	--

I Read the following piece of writing and answer the questions 1-4 either in English or in Japanese.

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については著作権法等の問題から公表することができませんのでご了承ください。

(出典：Nolen-Hoeksema, S., Fredrickson, B. L., Loftus, G. R., & Lutz, C., 2014, *Learning and Conditioning*, In Nolen-Hoeksema, S., Fredrickson, B. L., Loftus, G. R., & Lutz, C. (EDs), *Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology*, 16th Edition, 224-257, UK: Cengage Learning EMEA. 一部改変)

Question 1.

What makes taste aversion conditioning different from classical conditioning?

Question 2.

What stimuli were presented as CS and US in Garcia & Koelling's experiment?

Question 3.

What were the procedures for the second and third phases of the control group in the Garcia & Koelling's experiment?

Question 4.

Explain how Garcia & Koelling's experiment turned out. Write your answers for each of the experimental and control groups in terms of stimulus selectivity in taste aversion conditioning.

令和5年度 福島大学大学院地域デザイン科学研究科人間文化専攻入試問題

コース(領域)名	人間発達心理(教育心理学)	科目名	教育心理学	受験番号	
----------	---------------	-----	-------	------	--

I 資料を読んで、以下の問題に答えなさい。なお、解答スペースが不足した場合は、解答用紙の裏面を使用しても構いません。

設問1 下線部設問1について、本文に基づき図1の①と②に相当する変数名を記して下さい。

設問2 精神疾患を有する人々のリカバリー獲得および社会機能の改善のために、現在のあなたができると思うことを本文に基づきつつ述べて下さい。

資料

認知機能障害とリカバリー

リカバリーとは、当事者本人が自分の人生含自分の足で歩む「主体性」、さらにそうした感覚を持つ「主体感」を実現し、回復することである。以前は治療の目標として、精神症状の改善を意味する臨床的・リカバリーが治療目標とされることが少なくなかった。しかし、リカバリーの主役が当事者本人であることを鑑みれば当事者本人の「その人らしさの回復」、つまりパーソナル・リカバリーが重要な目標となることに疑う余地はない。実際、精神疾患を有する当事者を対象に、彼ら自身が「リカバリー」にあてはまると考える事柄について聞き取りを行った調査によれば、「症状がなくなる、あるいはかなり治まること(18.4%)」といった臨床的・リカバリーを包含する状態よりも、「通学や仕事、家事に従事すること(25.4%)」が最も多い回答であった。つまり、就労を始めとした社会機能の改善が、当事者にとってのリカバリー獲得と関係が強い。近年では、この社会機能との関連が指摘されている精神機能として認知機能障害があげられることが多く、さまざまな精神疾患や身体疾患に伴って、言語記憶・注意機能・語流暢性・遂行機能など広範な領域にわたって機能低下が認められることが知られている。

「雇用はされても、就労後すぐに指示を忘れてしまい、上司を怒らせてしまう。早口で話しかけられ、同時に複数のことをするように依頼されるが、どれが最も重要な仕事なのか、何が最初に行うべき仕事なのかは不明瞭なままである。どうすればよいか分からず、不安で、仕事は手につかない」。

この例のように、認知機能障害が認められた場合、就労を始めとした社会機能が悪化し、リカバリー獲得に悪影響を及ぼすのは想像に難くない。

精神疾患の中でも統合失調症については、認知機能障害の存在を百年以上前に Kraepelin が著書 PSYCHIATRIE (1913) において、「実際見られたものを保持して再生する」ことが苦手であり、「注意を自分の力で強く緊張し続ける」ことや「注意を向ける」ことさえ苦手になる、と紹介している。近年の研究によれば言語記憶・注意機能・語流暢性・遂行機能など広範にわたって認知機能障害が認められることが指摘されており、健常者に比して効果サイズ $1 \sim -1.5$ ほど低下していることが明らかとなっている。初回エピソードを発症する10年ほど前には認知機能

障害をきたし、発前して 10 年ほど経過した後までも認知機能障害は存在し続ける。Green らは過去の論文をまとめた総説の中では、就労・就学や日常生活などの社会機能は、陽性症状や陰性症状などよりも、認知機能障害との関連が強いと指摘し、初回エピソードから回復直後の認知機能の水準が、将来の就労状況などの社会機能を予測し得る、と考えられている。

(略)

リハビリ獲得のために治療標的とするべき周辺領域

リハビリ獲得および社会機能の改善には、狭義の認知機能、すなわち注意機能、記憶機能、遂行機能などの、いわゆる“神経”認知機能 (neurocognition) だけでなく、社会認知機能 (social cognition) なども相互して関与する可能性もある。社会認知機能は「他者の意図や性向を受止める人間としての能力を含む、社会的交流の根底にある精神機能」ないし「自分と同種の生物への対応を支える過程、特に、霊長類に観察される、非常に多様でフレキシブルな社会的行動を支える高次の認知過程」と定義される。社会認知機能には、社会知覚ないし感覚知覚、“心の理論”技能 (ToM)、原因帰属様式などの要素が含まれる。これまでの大規模観察研究やメタ解析の結果から、社会認知機能は直接的に心理・社会機能へ影響を及ぼすか、神経認知機能は社会認知機能を介して間接的に心理・社会機能へ影響を及ぼす可能性が指摘されてきた。

最近、社会認知機能障害を治療ターゲットとした社会認知機能トレーニング (“社会”認知矯正療法) による改善効果も報告され始め、すでに 19 報の RCT に関するメタ解析が Kurtz らにより報告されている。その結果、社会認知機能のうち、表情認知 (表情同定課題の効果サイズ: 0.71, 表情識別課題の効果サイズ: 1.01) や心の理論 (効果サイズ: 0.46) の改善効果は有意であったが、社会知覚や原因帰属様式に関しては有意な改善効果が認められなかった。また、精神症状 (効果サイズ: 0.68) や社会機能 (効果サイズ: 0.78) において有意な改善効果を認め、改善効果の般化が確認された。

さまざまな治療的介入を通して、社会機能の改善を目指す際に、“内発的動機づけ (intrinsic motivation)” の影響も加味する必要がある。“内発的動機づけ”とは、「金銭や食べ物、名誉、義務賞罰、強制などによってもたらされる“外発的動機づけ”」と対比され、「賞罰に依存せず、好奇心や関心など、心の中の満足感を得ることによってもたらされる動機づけ」を意味する。精神症状としての意欲の低下とも関連があり、主観的な側面として希望や将来の展望とかかわる。認知機能トレーニングの効果予測因子として Medalia らは治療者の経験、治療密度、訓練技法、仕事への態度とともに内発的動機の強さの重要性を強調している。その後の複数の観察研究にて、内発的動機づけは神経認知機能や社会認知機能と社会機能との間を介在する役割を担うことが明らかになりつつある^{図 1 (図 1)}。つまり、神経認知機能や社会認知機能の治療的介入は、内発的動機づけの向上と相まって、社会機能の改善をもたらす可能性がある。

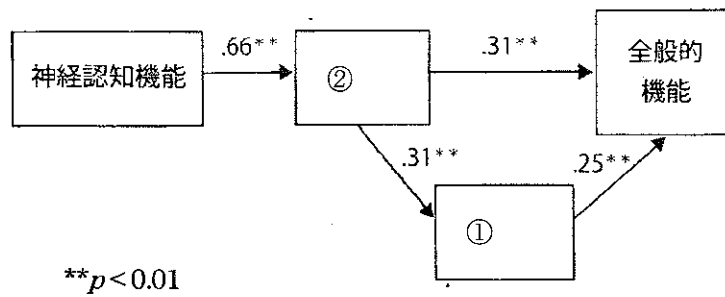


図1

(出典論文より一部改変引用)

出典：池澤 聰 (2021) . 認知リハビリテーションNEAR 臨床精神医学, 50 卷 12 号 p.1327-1335 より一部省略。

令和5年度 福島大学大学院地域デザイン科学研究科人間文化専攻入試問題

コース(領域)名	人間発達心理(教育心理学)	科目名	教育心理学
----------	---------------	-----	-------

受験番号	
------	--

II

以下の用語群あるいは List から 3 つの用語を選択して、それぞれ簡潔に説明しなさい(解答は日本語でも英語でも可)。解答は解答用紙IIに、選択した用語を明示したうえで記述すること。なお、解答スペースが不足した場合は、解答用紙の裏面を使用しても構わない。

例:

用語1: ああああ...

用語2: いはいい...

用語3: うううう...

Choose 3 keywords either from 用語群 or from List. Write down each key word and explain them in English or in Japanese. You may use the back side of the ANSWER SHEET II if you need more space.

Example:

Keyword 1: AAAAA...

Keyword 2: BBBBB...

Keyword 3: CCCC....

用語群

達成動機, 快楽中枢, 神経伝達物質, 効果の法則, 反応形成, 感覚遮断, 記憶の2要因説,
ピアジェの発達理論, ウェクスラー知能検査, 性格の5因子説, ソーシャル・サポート, 多数派への同調,
投影法, ストレス・コーピング, 双生児法, 統制群, 効果量, 因子分析

List

Achievement motivation, Pleasure center, Neurotransmitter, Law of effect, Shaping,
Sensory deprivation, Two-store memory model, Developmental theory of Piaget, Wechsler intelligence test,
Big five factor theory of personality, Social support, Conformity to a majority, Projective technique,
Stress coping, Twin method, Control group, Effect size, Factor analysis